

第9期

# 環境マネジメント交流会議

～環境保全を通じた「持続可能な社会」の実現と「経営」への貢献策を探求する交流討議～

**開催趣旨**

2015年9月の国連サミットにて、2030年までの国際社会が目指すべき「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals:SDGs)をコアとする「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されて以来、世界の国々の企業で目標達成への取り組みが展開されています。SDGs:17のゴール中、食料安全保障・水・エネルギー・気候変動・陸域生態系、森林管理、砂漠化への対処、生物多様性など、多くのゴールが環境問題に関連しており、環境関連ゴールの達成のためには、企業が有する様々な技術と多様な資源の活用が不可欠です。本交流会議は、企業におけるSDGs:環境関連ゴール達成にむけた環境マネジメントの問題・課題を環境部門:実務家の視点から提起し合い、知見・ケースの交流討議を通じて解決への気付きと活力を共有していただくことを目的に開催し、第1期から第8期の活動にて異業種研究交流討議ならではの貴重な成果を残しております。つきましては先期:第8期での成果を踏まえ、第9期での研究交流討議の進化・深化にむけて本交流会議の趣旨へのご賛同をいただける熱意ある環境部門:実務家各位のご参加をお待ちしております。

**ご参加対象**

本社、事業所、工場において環境マネジメントを通じて企業経営に資する意志と問題意識を持ち、研究交流討議、相互啓発に積極的なご参画をいただける皆さま。

**第1回例会**

3月16日(金) 13:00～18:30

会場:東京・表参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

『住友化学のサステナビリティへの取り組みと気候変動問題への対応』

- ・住友化学の発祥と経営理念
- ・サステナビリティ/SDGsへの取り組み方針
- ・スミカ・サステナブル・ソリューションの推進
- ・気候変動問題への対応と今後の課題

— メンバーとの対話 —

◇ゲスト:住友化学株式会社 レスポンシブルケア部 気候変動対応 担当部長 **河本 光明** 氏



◇オリエンテーション 14:40～18:45 分科会の進め方、課題交流、懇談会

■「第1回例会」は正式入会をご検討中の方の「体験参加」が可能です。詳細は申し込みページをご参照下さい■

**第2回例会**

4月20日(金) 13:00～17:00

会場:東京・表参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

『日立グループ環境長期目標「日立環境イノベーション2050」  
～「低炭素社会」の実現に向けて～』(仮題)

◇ゲスト:株式会社 日立製作所 CSR・環境戦略本部 企画部 部長代理 **長岡 康範** 氏

◇14:40～15:25 講演テーマを題材とした意見交流(予定) & 15:30～17:00 テーマ別分科会

**第3回例会**

5月18日(金) 13:00～17:00

会場:東京・表参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

『ナブテスコ株式会社における  
SBT、CDP、CDP Water への取り組み』(仮題)

◇ゲスト:ナブテスコ株式会社 ものづくり革新推進室 環境安全部 参事 **山岡 達也** 氏 **王 依婷** 氏

◇14:40～17:00 テーマ別分科会 ◇交流会

**第4回例会**

6月15日(金) 13:00～17:00

会場:表東京・参道「アイビーホール」

◇全体会:13:00～14:30

『倫理としてのCSRから戦略としてのESGへ』(仮題)

◇ゲスト:株式会社 大和総研 調査本部 主席研究員 **河口 真理子** 氏

◇14:40～17:00 テーマ別分科会

第5回例会 7月6日(金)～7日(土)	<b>【合宿研究会】</b> ※前半分科会活動の共有 ※分科会研究テーマに関する課題を持ち寄り徹底的に議論を重ね、対応策・提案事項の検討	
第6回例会 7月27日(金)	<b>【見学会】</b> 株式会社 リコー 環境事業開発センター(静岡県:御殿場市) ※スケジュール詳細は別途ご案内いたします。	
第7回例会 8月24日(金)	13:00～14:30 <b>【全体会】</b> ーメンバー及びゲスト講演 分科会研究を支援するテーマを予定	14:40～17:00 <b>【分科会】</b>
第8回例会 9月21日(金)	13:00～14:30 <b>【全体会】</b> ーメンバー及びゲスト講演 分科会研究を支援するテーマを予定	14:40～17:00 <b>【分科会】</b>
第9回例会 10月19日(金)	13:00～17:00 <b>【分科会討議成果発表による全体共有】</b>	17:10～18:45 <b>【終了交流会】</b>

**開催時間:**原則として13:00～17:00 都内の会議室(表参道:アイビーホール)にて開催(見学会・合宿研究会は除く)

## ▶ 交流会議の開催要領と基本的すすめ方

### 前半:【全体会】 13:00～14:30

#### ■ 識者、先進企業事例に学ぶ環境・資源効率化

この分野に造詣の深い識者と環境経営先進企業の推進ご担当者、具体的展開と実践の苦心談、解決策を聞くとともに推進施策を学びます。



### 後半:【分科会】 14:40～17:00

#### ■ 課題交流と課題解決のためのグループ研究

メンバーの問題意識、課題の集約化・重点化を図り、希望テーマに分かれて分科会(研究グループ)を編成。それぞれに成果をまとめ各期での共有財産としてメンバー企業各社の環境経営の現場で活かされています。



## ▶ 第9期での編成分科会: 候補案・課題案(小項目は論点の例示です)

### □ 【中長期環境ビジョンの策定と推進】

- ・中長期ビジョンの先には何があるか
- ・EMS(Environmental Management System)をどのように環境ビジョンに取り組むか。

### □ 【資源・廃棄物・循環型社会への対応】

- ・海外を含めた廃棄物削減など世界的な動向
- ・「サーキュラーエコノミー」を具体的にどう展開できるのか。

### □ 【SBTの推進と温暖化の緩和と適応策】

- ・目標設定と達成への取り組み
- ・具体的施策としてのScoop3

### □ 【SDG/sの活用】分科会

- ・SDGs Compssのステップ2以降への取り組み施策
- ・対応すべき社内の組織体制のあり方

### □ 【サプライチェーンを通じた環境負荷低減】

- ・自社内だけでは解決できないサプライチェーン全体へのアプローチを実行する低減活動の実例。効果測定
- ・CO<sub>2</sub>で表現できる方法以外の負荷低減の検討。サプライヤー間での相互作用による効果向上施策。

### □ 【海外現法の環境マネジメントと本社の支援・推進体制】

- ・グローバル&グループとしての環境マネジメントへの一体感
- ・グローバル環境管理プログラムの運用

### □ 【環境情報開示と外部評価への対応】

- ・CDP、DJSI等などの外部調査にどう対応していくか。
- ・社内(含む海外)の情報収集方法。情報の発信。
- ・気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)最終報告を受けての企業対応・情報開示の質と・量

### □ 【再生可能エネルギー導入・利用拡大の動向】

- ・再生エネルギーの有効活用
- ・自然エネルギーと企業活動のあり方

### □ 【環境教育と環境コミュニケーション・情報発信】

- ・企業としてのESD(Education for Sustainable Development)のあり方。
- ・ローカル・グローバルでの効果的な取り組み。

### □ 【水リスク】(水のサプライチェーンマネジメント)

- ・バーチャルウォーターの考察
- ・ウォーターフットプリントの観点を含むサプライチェーンでの水利用のあり方

### □ 【自然資本・生物多様性の取り組みと推進】

- ・自然の恵みを評価して経済的価値に換算し、適切に管理
- ・生物多様性を配慮した事業戦略
- ・工場を中心とした生態系ネットワーク構築

### □ 【その他】

- ・メンバー提案のテーマなど

※ご希望人数により、第1希望から第2希望へのご変更のお願いを申し上げます。また、開催に至らない分科会もございます。予めご了承ください。

### 分科会活動・進行の例示

●Stage1 メンバー各社・各自の共通課題の抽出:4月・5月

●Stage2 研究課題とあるべき姿の重点化:6月・7月

●Stage3 ケース交流、ベストプラクティスの分析:7月・8月・9月

●Stage4 討議活動の発表と共有:10月

## ▶ 交流会議の特徴

- 1 異業種交流を深めることにより業種・業界の壁を越えた新しい発想や手法を学ぶことができ、また、社外のネットワークを広げ**パーソナルバリュー**の向上が図れます。
- 2 環境経営の新しい流れや考え方、実践手法について、研究者・先進企業の事例研究により**最新の情報を収集**できます。
- 3 単なる情報交換だけでなく、その背景にある**実務に直結したノウハウの交換**が行えます。また、必要に応じメンバー企業間の資料交換も行います。
- 4 フォーマル活動に加えインフォーマル活動を随時行うことで、信頼関係による**“ここだけの話”的なディスカッション**が可能となります。

## ▶ 第9期 交流会議 実務家幹事とメンバー構成

**運営幹事体制**：本交流会議の企画・運営へのご協力、アドバイスをいただきます。（順不同）※ご所属・お役職は2018年1月現在。

・旭硝子(株)	環境・安全・品質部 シニアマネージャー	宮崎 俊幸氏
・(株)竹中工務店	CSR推進部 副部長	川人 尚美氏
・三井化学(株)	コーポレートコミュニケーション部 CSR-G 主席部員	高野 安広氏
・NTTコミュニケーションズ(株)	総務部 CSR・環境保護推進室 担当課長	吉田 忠雄氏
・(株)LIXIL	品質・EHS本部 EHS推進部 主査	青木 祐樹氏

※上記の皆様のほか、第8期よりのご継続メンバーの方々にご依頼中です。

**先期：第8期のご参加企業**：25社43名：本社・事業所の環境経営推進・環境安全管理部門などの部課長及びスタッフの方々

- |                   |             |            |          |            |            |
|-------------------|-------------|------------|----------|------------|------------|
| ・旭化成(株)           | ・旭硝子(株)     | ・(株)カネカ    | ・(株)ノーリツ | ・(株)NTTドコモ | ・大日本印刷(株)  |
| ・JSR(株)           | ・武田薬品工業(株)  | ・東京ガス(株)   | ・YKK(株)  | ・(株)竹中工務店  | ・オリンパス(株)  |
| ・アズビル(株)          | ・ナブテスコ(株)   | ・シチズン時計(株) | ・ヤマハ(株)  | ・パナソニック(株) | ・理想科学工業(株) |
| ・(株)ニチレイ          | ・富士ゼロックス(株) | ・グローリー(株)  | ・三井化学(株) | ・大塚製薬(株)   | ・(株)LIXIL  |
| ・NTTコミュニケーションズ(株) |             |            |          |            |            |

### 第8期メンバーの声(抜粋)

#### 《全体会について》

- ※先進的な取り組みをご紹介いただき大変参考になりました。講師の方とも名刺交換をさせていただき人脈も広がりました。
- ※環境活動、SDGsやSBTのセミナーなど、近年話題となっているテーマについての考え方、各社の取り組み状況が大変参考になりました。
- ※質疑応答の時間も議論が活発で、非常にやる気のあるメンバーが集まっている有意義な活動であることがわかりました。

#### 《分科会について》

- ※交流会議外での相談も出来たので非常に役に立った。
- ※SDGs分科会では、各社の取り組み状況、課題、今後の方針、動向を含めて参考になりました。
- ※企業や業界を越えて、各社どのような悩みがあるのかということ共有でき、今後社外への働きかけをする際の参考になると感じました。
- ※社外交流の場で異業種から気付かされる点も多かった。同じ悩みを持つ仲間から建設的な意見交換ができて大変よかった。

### 《先期：第8期 全体会 活動経過》

第1回：3月	【コニカミノルタの環境経営の取り組み】 同社 環境経営・品質推進部 環境経営グループ 環境マーケティンググループリーダー	
第2回：4月	【国連グローバル・コンパクト：「持続可能な開発目標(SDGs)」と企業の環境経営】 国連グローバル・コンパクト ボードメンバー グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事	
第3回：5月	【積水化学グループの環境長期ビジョン達成にむけた中期計画のSHINKA(進化・深化・新化)の取り組み】 積水化学工業(株) 経営戦略部 環境経営グループ 担当部長	
第4回：6月	【COP21(パリ) およびその先を見据えた世界の動向と Science Based Targets】 WWF ジャパン (公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン) 気候変動・エネルギープロジェクトリーダー	
第5回：7月	合宿研究会 分科会活動(集中討議)	
第6回：8月	【キリングループの持続可能な生物資源使用、容器包装使用を実現する取り組み】 キリン(株) CSV 戦略部 シニアアドバイザー	<b>《第8期での開催分科会》</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中長期環境ビジョンの策定と推進</li> <li>●資源・廃棄物：循環型社会への対応</li> <li>●SBTの推進と温暖化の緩和と適応策</li> <li>●SDG/sと環境経営</li> <li>●サプライチェーン全体を通じた環境負荷低減</li> </ul>
第7回：9月	【これならわかる、SDGsの優先課題の決定と経営への統合】 (株)伊藤園 常務執行役員 CSR推進部長	
第8回：10月	【分科会研究発表】 研究成果の発表と意見交流、成果の共有化	

●SBTの推進と温暖化の緩和と適応策

3. 分科会、検討の進め方②

SBTへの目標提出は以下の流れで実施できることも確認

SBTへのコミット、目標のSBT認定・公表までの流れ



●SDG/sと環境経営

1. 分科会の目的

まず、各社のSDGsに関する現状と課題を共有

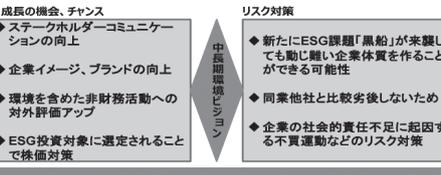
- 1) SDGsとは何なのか? 経営層を含め理解されていない
- 2) 会社としてSDGsに取り組むべきと認識しているが、「何はいいかわからないのか?」と問われている。
- 3) 環境以外の課題もあり、環境部門だけで進められない
- 4) 本当に取り組まないといけないか、判断できない。
- 5) SDGsのマテリアリティ評価に基づくKPIの設定と共有を進めたい。

●中長期環境ビジョンの策定と推進

2. 中長期環境ビジョン策定の意義②

分科会メンバーが考える中長期環境ビジョン策定の必要性

- ◆ 企業のESGへの取り組みをステークホルダーに説明し共有するには、環境ビジョンを策定し、ストーリーを説明することで伝わり易くなる。
- ◆ SDGs、パリ協定など、社内社外の変化への対応。



●資源・廃棄物:循環型社会への対応

共通課題からのテーマ抽出

■ 各社の課題を抽出してみたところ、いくつか共通項が浮かび上がってきた。(ゼロエミッション、廃棄物総発生量の削減、再資源化率の向上)  
⇒ 資源循環をテーマとして挙げることにした。

■ WWF(公益財団法人世界自然保護基金)の試算では、「2030年には地球2個分以上の資源がないと現在の消費は維持できない」  
⇒ 方型経済には限界がある。⇒ サステナブルな経済が必要。

■ 循環型社会の新しい概念の一つにサーキュラーエコノミー(CE)がある。  
⇒ CEでは、CEの実現を経済成長戦略の一つに位置付けている。

●SCM全体を通じた環境負荷低減

目標設定\_目指すべき姿

現在の状況と課題からわかったこと  
サプライヤーに対し、「環境負荷低減に係る指針やガイドライン」の配布や各種調査を依頼しているだけで、効果的な活用ができていない。  
サプライヤーと環境負荷低減に係る積極的な意見交換ができていない。  
社内における社会全体の環境負荷低減に取り組む意識が低い。  
企業間だけでなく大きな枠組みである、社会や業界への対応が不可欠。

最終的に目指すべき姿(イメージ)

サプライヤーと協働し、商品・サービスの環境負荷低減を目指す  
社会や業界への仕掛けを目指す

●取組アプローチ

- ① サプライヤーとの目標の共有と協働施策の実施
- ② 社内組織、特に購買部門へのアプローチ
- ③ 社会、業界への対応

▶参加要項

■ 参加費:一社より2名様(主・副メンバー)のご参加が可能です。\*消費税含む

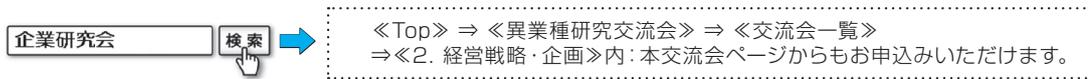
正会員	216,000円 (本体:200,000円)	一般	237,600円 (本体:220,000円)
-----	------------------------	----	------------------------

\*上記料金は資料代・通信費などを含んでおります。

\*合宿研究会参加費(29,000円ほど:税別)は、ご参加の際、正・副メンバーごとに別途ご予定ください。

\*参加費の分割お支払いも可能です。ご請求品目等についてなどお気軽にご相談下さい。

■ 申込方法:下記申込書に所定事項をご記入の上、FAXまたはE-mailにて下記担当宛にご送信ください。



〒102-0083 千代田区 麹町5-7-2 麹町M-SQUARE 2階 <http://www.bri.or.jp>

一般社団法人 企業研究会 事業開発グループ 担当:早瀬

電話:03-5215-3513 FAX:03-5215-0951 E-mail:hayakan@bri.or.jp(早瀬)

\*お申し込みの後、第1回例会通知(含む会場略図・関連フォームなど)をE-mailにて送信いたします。

年会費ご請求書は後日郵送致します。ご不明な点は早瀬宛にお問い合わせください。

体験参加につきまして:第1回例会3/16は、正式入会をご検討中の方に交流会議の雰囲気をご覧頂く「体験参加」が可能です。

\*費用無料・要:事前予約。ご希望の方は、下記枠内にチェックを頂き、必要事項をご記入の上、FAX・E-mailにてご送信ください。

折り返し、「第1回例会:体験参加通知」をE-mailにてご案内致します。

■第9期 環境マネジメント交流会議 申込書■ [事業コード:170121] [区分] 正会員/一般

本交流会議の趣旨に賛同し、正式に参加を申し込みます。

参加を検討中につき、第1回例会の体験参加を希望します。

※左記枠内にチェックをお願い致します。

会社名	会社所在地 〒 _____		
主登録 (フリガナ) 氏名	部課・役職名	TEL: ( ) ( )	FAX: ( ) ( )
副登録 (フリガナ) 氏名	部課・役職名	TEL: ( ) ( )	FAX: ( ) ( )
E-mail: _____			
その他(備考) 所属の住所が正登録、副登録者の住所が異なる場合はお知らせください。			

\*副登録者は主登録者と共に常時例会に参加いただける方です。特におられない場合は、空欄でも結構です。

\*お客様の個人情報は、本交流会議に関する確認・連絡および当会主催のご案内等をお送りする際に利用させていただきます。